

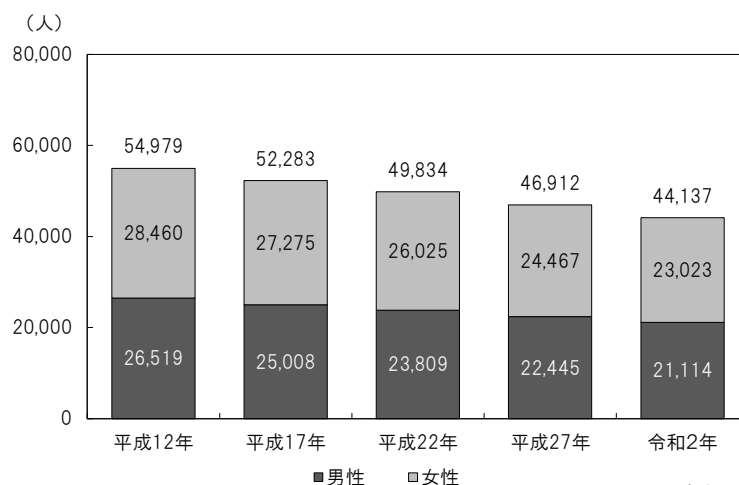
南あわじ市の概況

(1) 人口の動向

① 人口の推移

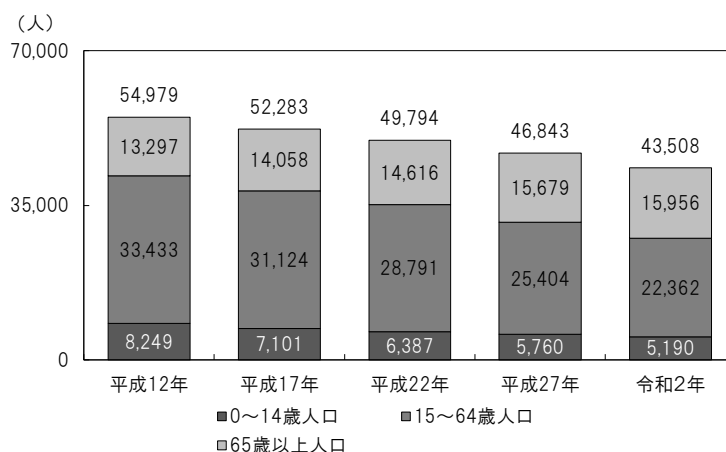
男女別人口の推移をみると、男女ともに減少を続けており、令和2年には44,137人となっています。また、年齢3区分別にみると、0～14歳人口、15～64歳人口が減少している一方、65歳以上人口は増加しています。

■男女別人口の推移



資料：国勢調査

■年齢3区分別人口の推移

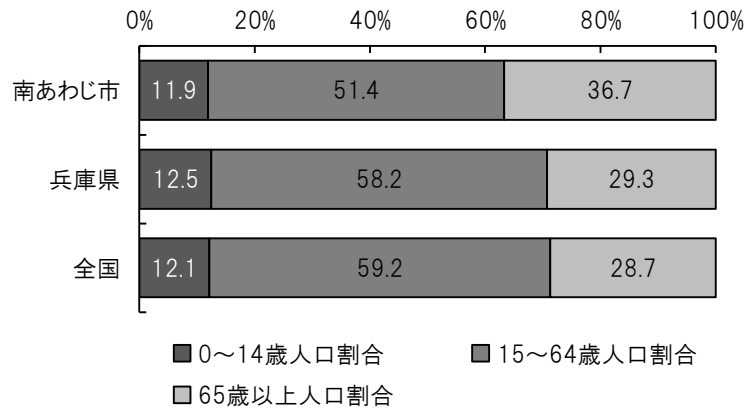


資料：国勢調査

注) 総数には「不詳」を含まないため、男女別総人口と異なる。

年齢3区分別人口割合の推移をみると、令和2年の65歳以上人口割合は、国・県を大きく上回り、36.7%となっています。

■年齢3区分別人口割合の比較（国・県）令和2年

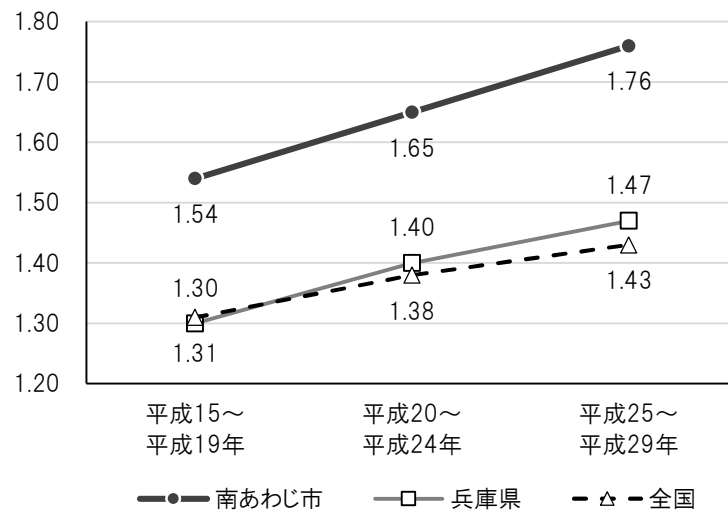


資料：国勢調査

② 合計特殊出生率の推移

合計特殊出生率をみると、国・県より高い水準で推移しており、平成25～29年には1.76となっています。

■合計特殊出生率の推移（国・県比較）



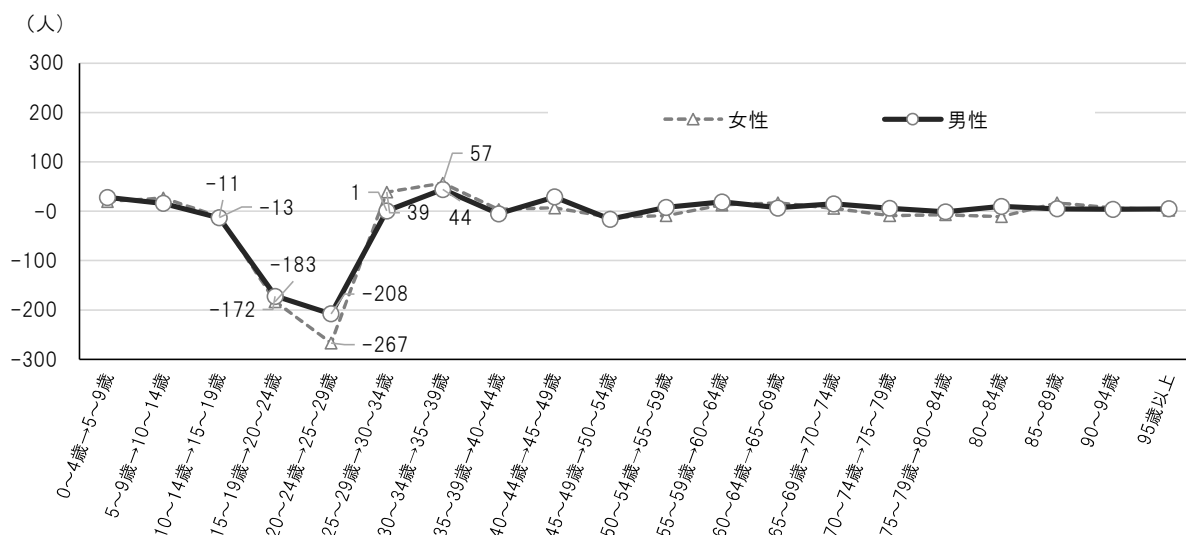
資料：人口動態保健所・市町村別統計

③ 南あわじ市の年齢別純移動数

年齢別の純移動数をみると、男女ともに移動数が、(2015→2020年)では、(2010→2015)よりも減少しています。

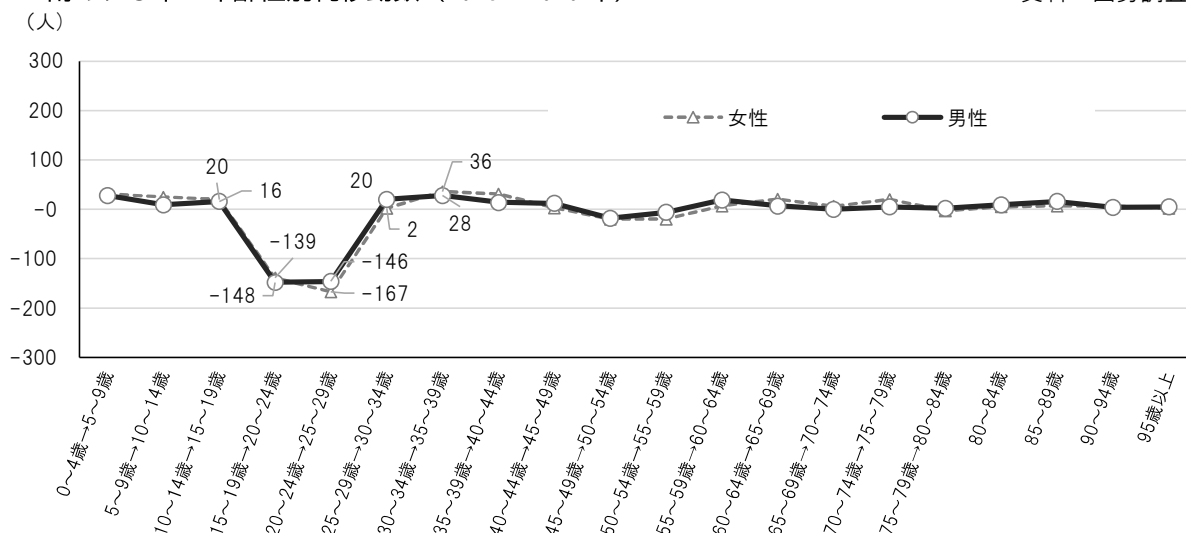
また、10歳代、20歳代でともに転出超過となっています。

■南あわじ市の年齢性別純移動数（2010→2015年）



■南あわじ市の年齢性別純移動数（2015→2020年）

資料：国勢調査



資料：国勢調査

■人口の社会増減(2015→2020年)

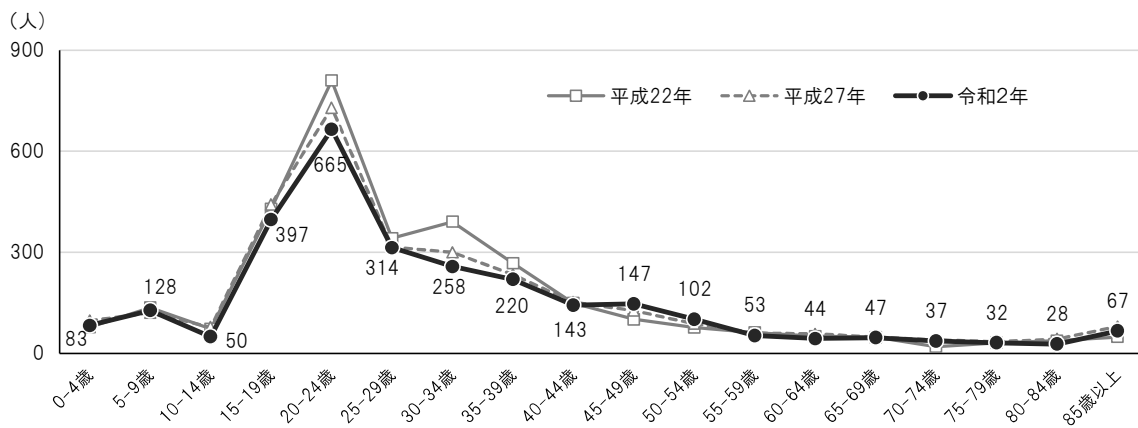
南あわじ市	男性		女性	
	10歳代	20歳代	10歳代	20歳代
2015→2020年	-119人	-165人	-132人	-126人

資料：国勢調査

④ 転出者数の推移

転出者数の推移をみると、いずれの年度も20～24歳が最も多く、次いで15～19歳が多くなっています。

■世代別転出者数の推移

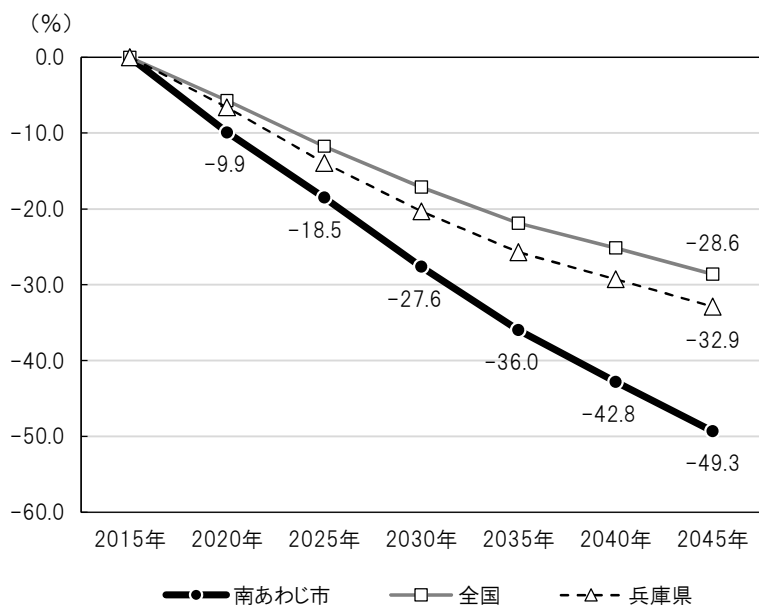


資料：国勢調査

⑤ 各年齢層における減少率

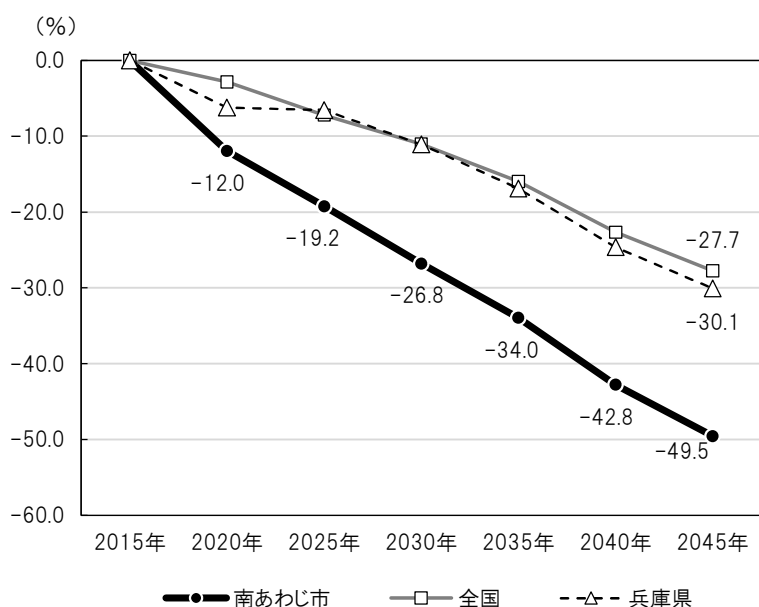
各年齢層における減少率の比較をみると、0～14歳、15～64歳人口の減少率は国・県より高い水準で推移し、2045年には0～14歳人口の減少率は-49.3%、15～64歳人口の減少率は-49.5%となることが予測されます。

■0～14歳人口の増減率の比較（国・県）



資料：国立社会保障・人口問題研究所推計

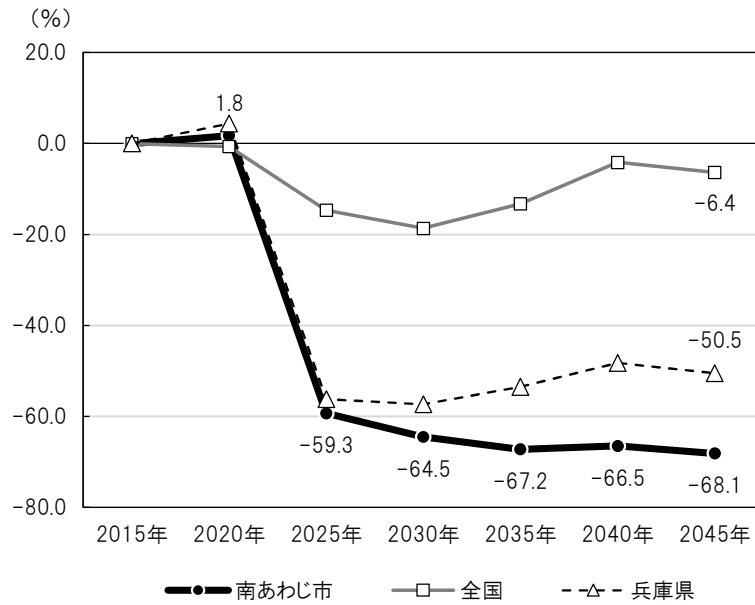
■15～64歳人口の増減率の比較（国・県）



資料：国立社会保障・人口問題研究所

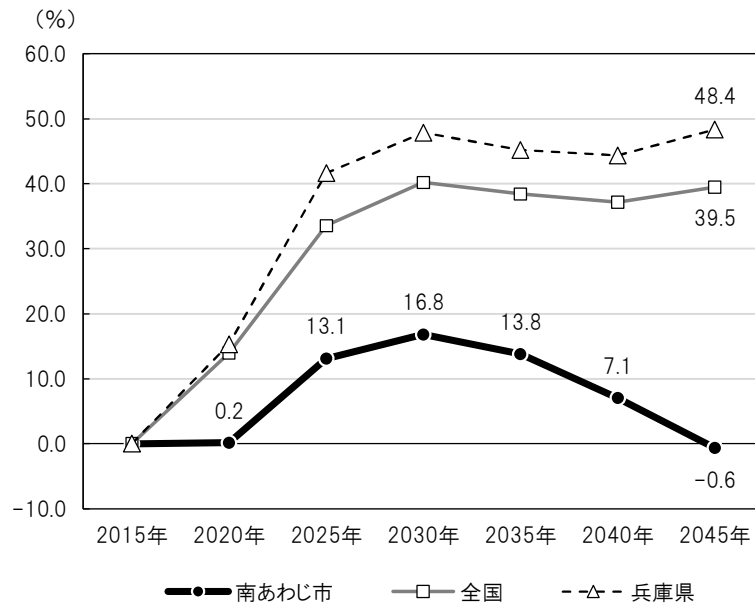
65～74歳人口の減少率をみると、2025年まではほぼ県と同じ水準で推移していましたが、2030年以降は国・県より高い水準で推移し、2045年には-68.1%となることが予測されます。一方、75歳以上人口の減少率は国・県より低い水準で増加しており、2045年には-0.6%と減少に転じることが予測されます。

■65～74歳人口の増減率の比較（国・県）



資料：国立社会保障・人口問題研究所推計

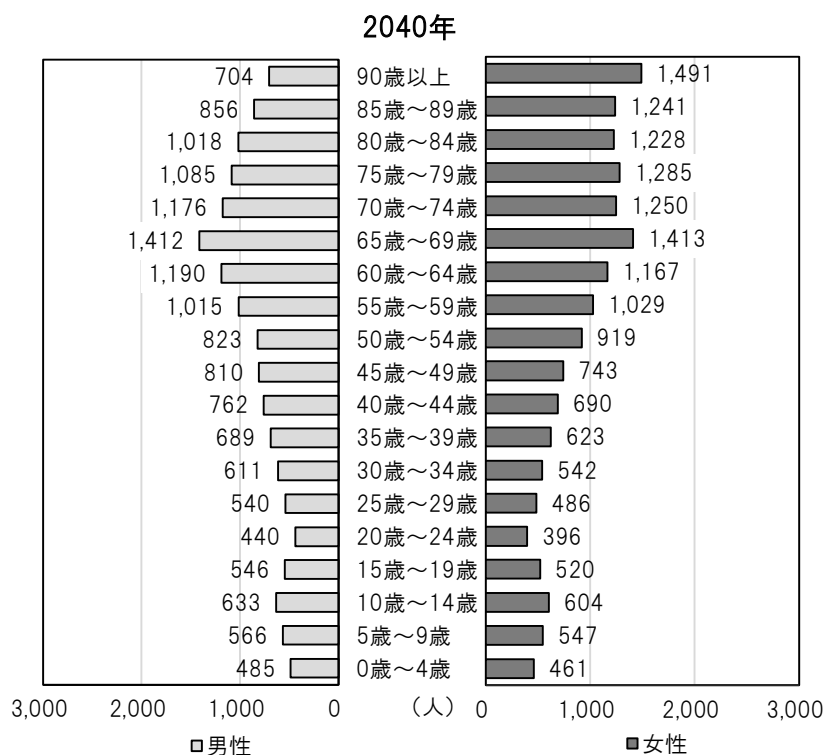
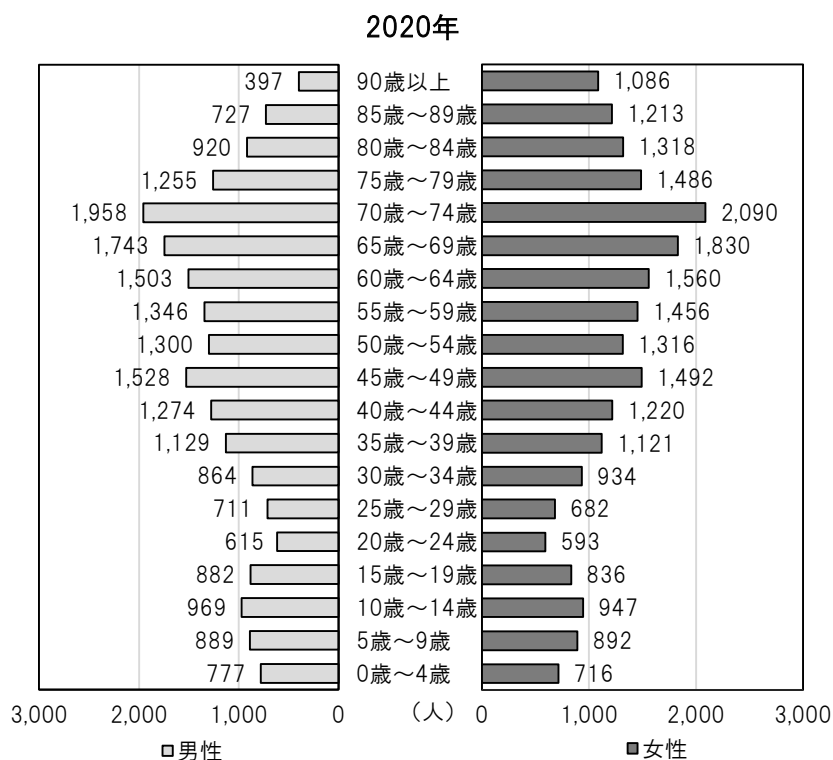
■75歳以上人口の増減率の比較（国・県）



資料：国立社会保障・人口問題研究所推計

⑥ 人口構造（2020年・2040年）

2020年の人口構造をみると、男女ともに団塊の世代である前期高齢者人口が多くなっています。一方、2040年の人口構造をみると、男性は65～69歳、女性は90歳以上の人口が最も多くなっています。また、男女ともに生産年齢人口の大幅な減少が予測されます。

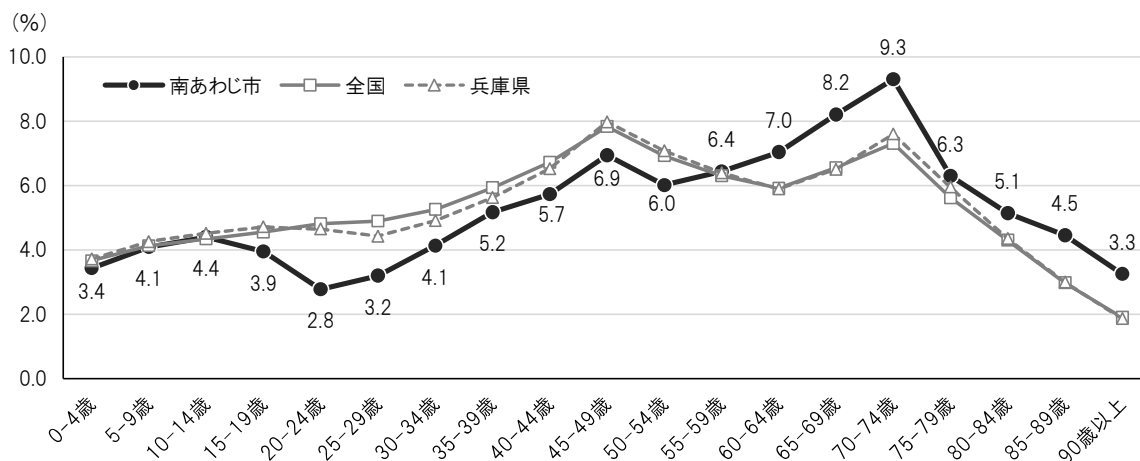


資料：国勢調査（2020年）、国立社会保障・人口問題研究所（2018年推計）（2040年）

⑦ 年齢別人口構造の比較

年齢別人口（5歳区分）の割合をみると、10歳代後半から50歳代前半の人口割合が国・県と比較して低くなっている一方、60歳代以上のすべての区分で国・県より高くなっています。

■年齢別人口（5歳区分）割合の比較（国・県）令和2年

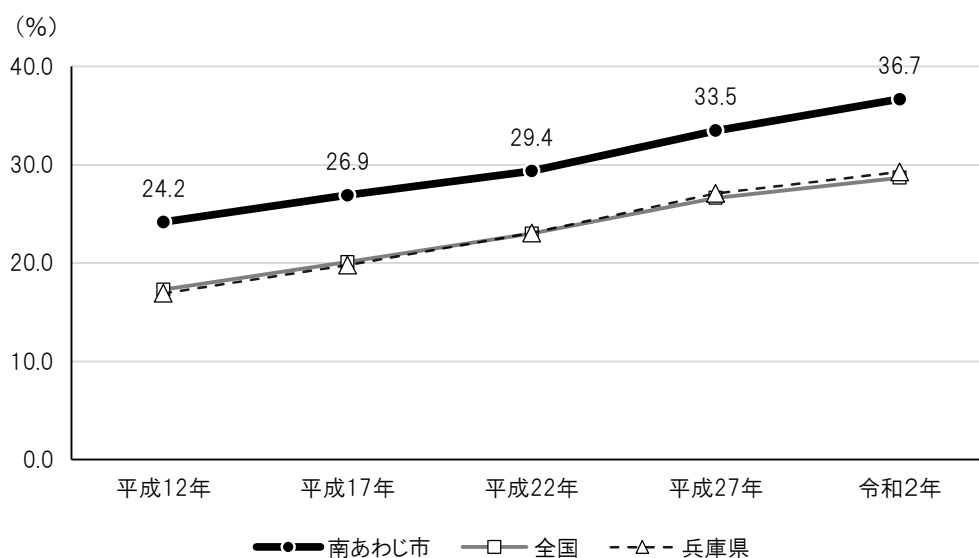


資料：国勢調査

⑧ 高齢化率の推移

高齢化率をみると、国・県より高い水準で推移しており、令和2年には36.7%となっています。

■高齢化率の推移（国・県比較）

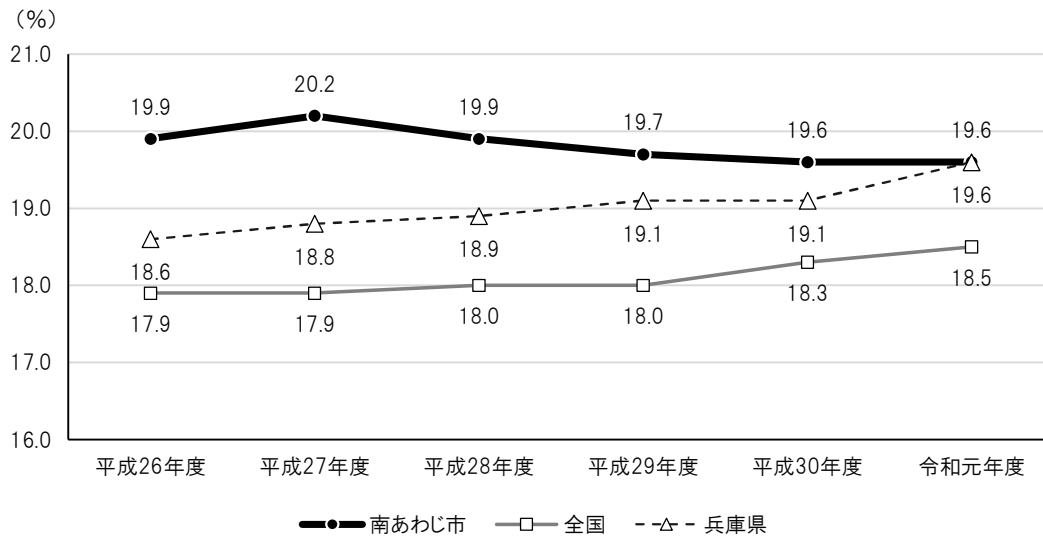


資料：国勢調査

⑨ 要介護認定率

要介護認定率をみると、国・県より高い水準で推移しており、令和元年度は19.6%となっています。

■要介護認定率の推移（国・県比較）



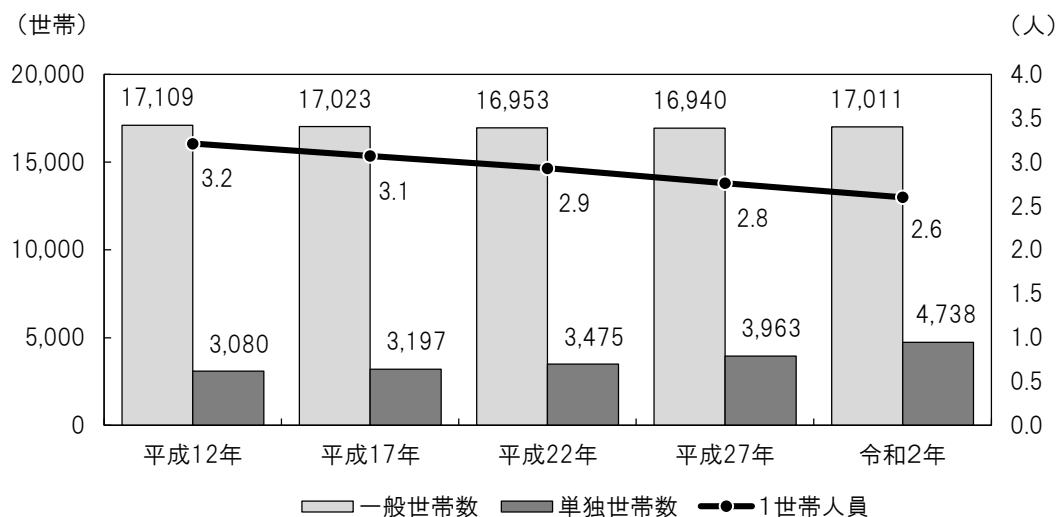
資料：地域包括ケア見える化システム

(2) 世帯の状況

⑩ 単独世帯数と一世帯あたりの人員の推移

単独世帯数の推移をみると、平成12年以降増加を続けており、令和2年には4,738世帯となっています。また、一世帯あたりの人員は減少傾向で推移しています。

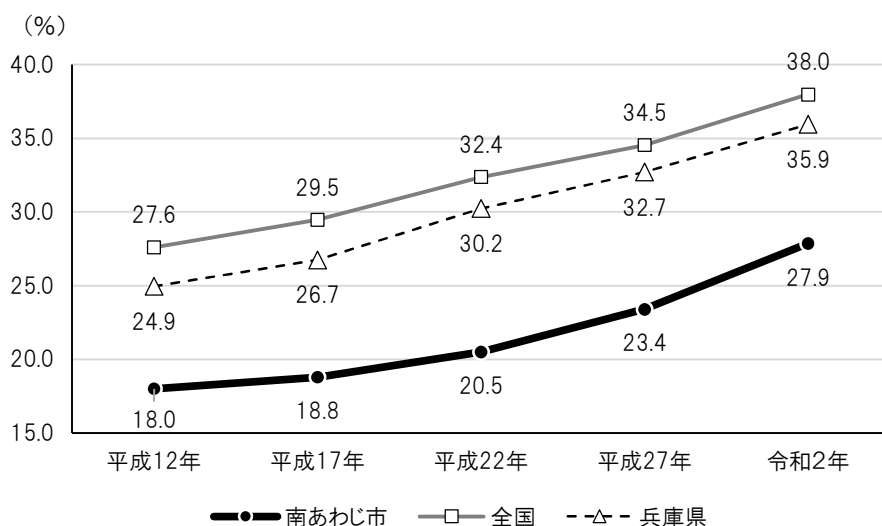
■一般世帯数・単独世帯数と一世帯あたりの人員の推移



資料：国勢調査

単独世帯が一般世帯総数に占める割合をみると、国・県より低い水準で推移しているものの、平成12年以降増加を続けており、令和2年には27.9%となっています。

■一般世帯数に占める単独世帯数の割合の推移（国・県比較）

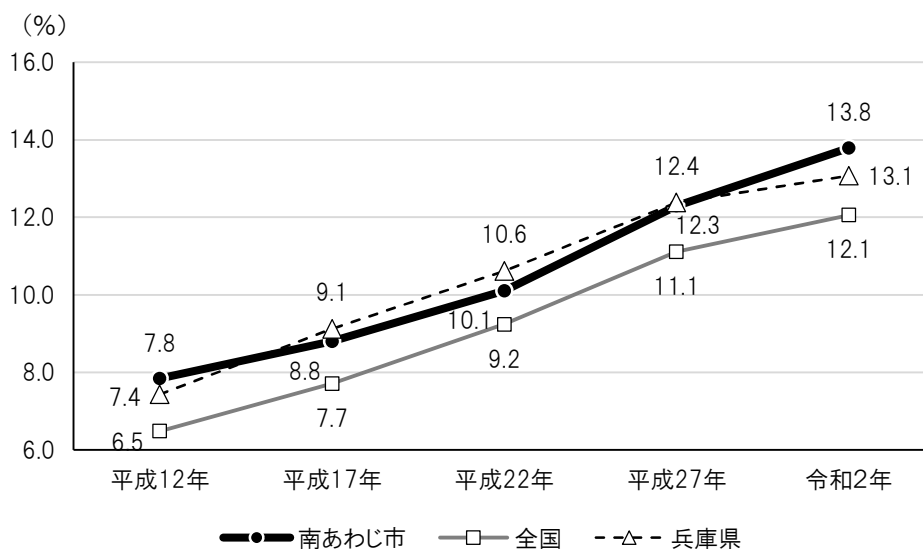


資料：国勢調査

⑪ 高齢者単身世帯数の割合の推移

高齢者（65歳以上）の単身世帯が一般世帯総数に占める割合をみると、平成12年以降増加を続けており、国を上回る水準で推移しています。令和2年には国・県を上回り、13.8%となっています。

■一般世帯数に占める高齢単身世帯数の割合の推移（国・県比較）

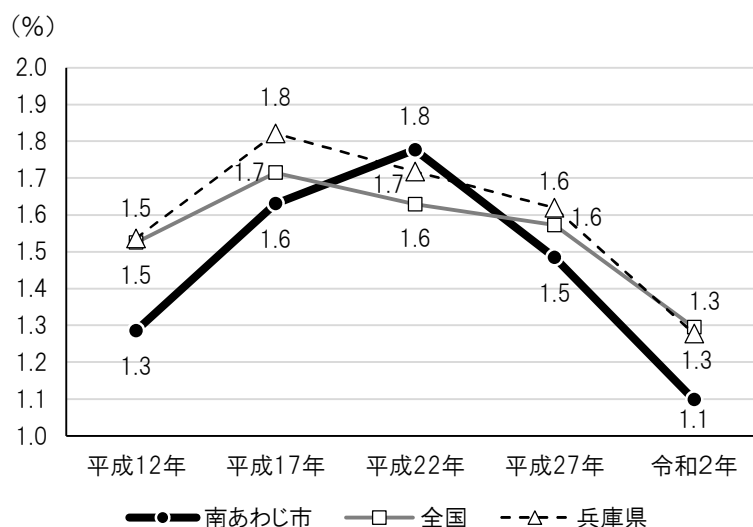


資料：国勢調査

⑫ ひとり親世帯の割合の推移

ひとり親世帯（母子世帯＋父子世帯）が一般世帯総数に占める割合をみると、平成12年から平成22年にかけて増加していましたが、平成27年には減少に転じています。また、平成22年を除き国・県より低い割合となっています。

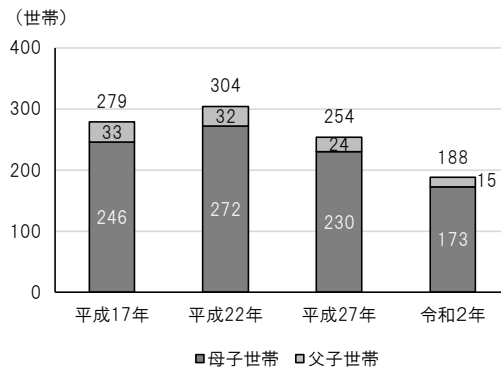
■一般世帯数に占めるひとり親世帯数の割合の推移（国・県比較）



資料：国勢調査

【参考】

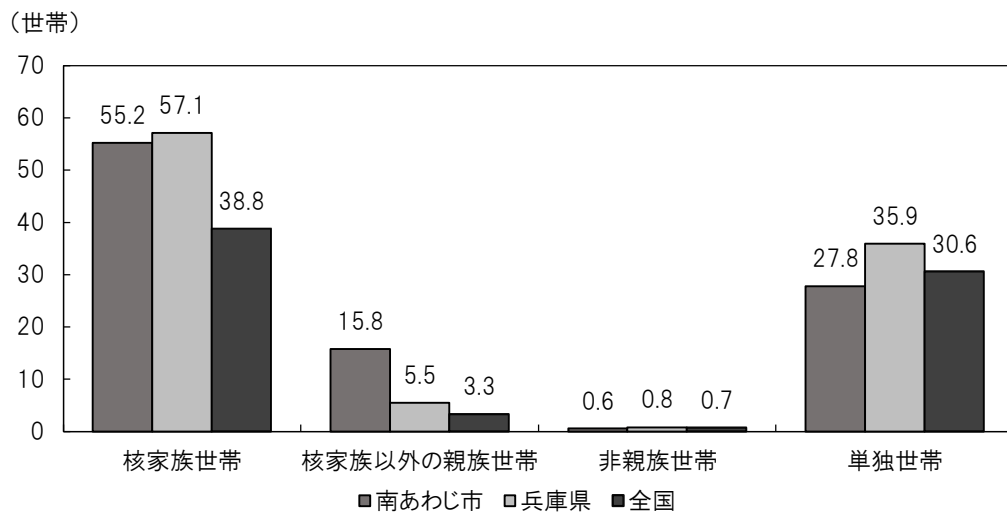
本市の母子世帯・父子世帯数の推移（国勢調査）



⑬ 世帯の家族類型の割合

世帯の家族類型の割合をみると、核家族以外の親族世帯は国・県比較すると最も高く、非親族世帯と単独世帯の割合は最も低くなっています。

■世帯の家族類型比較（令和2年）

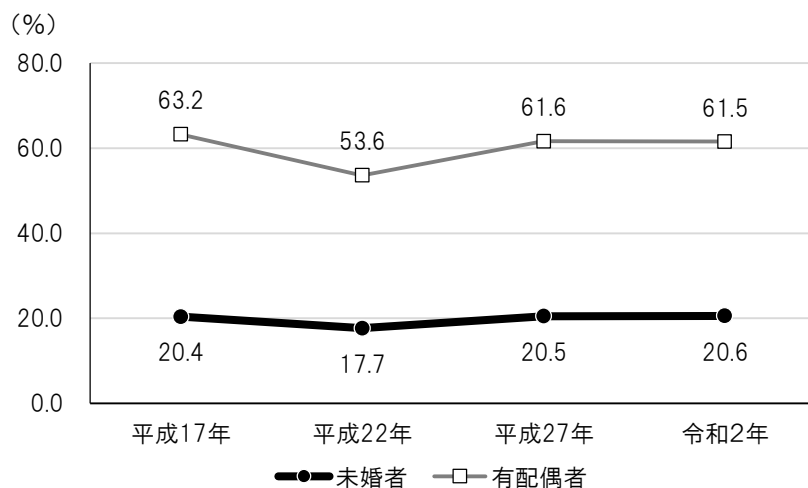


資料：国勢調査

⑭ 未婚率・有配偶者率の推移

未婚率・有配偶者率をみると、ともに平成22年で減少した後に、上昇傾向で推移しています。

■未婚率・有配偶者率の推移

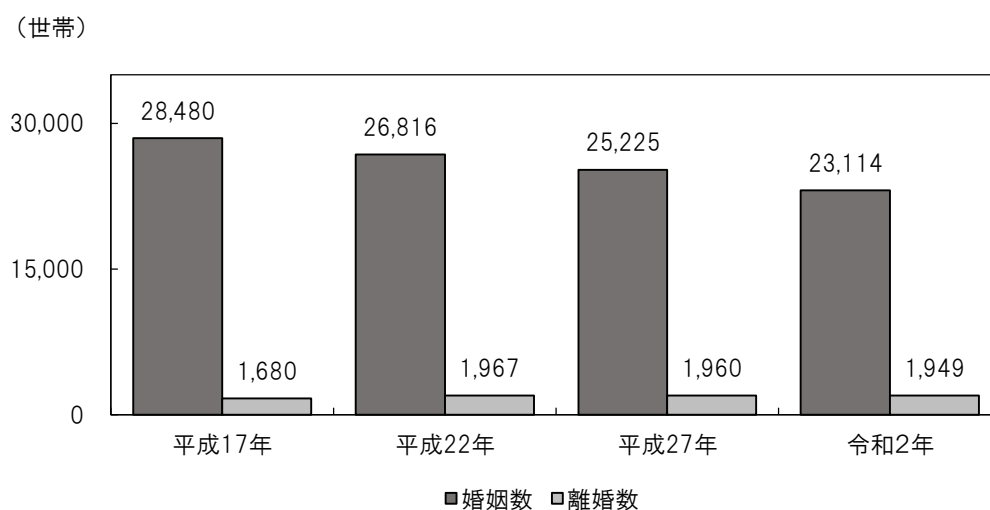


資料：国勢調査

⑮ 婚姻数・離婚数の推移

婚姻数と離婚数をみると、平成22年以降ともに減少傾向で推移しており、令和2年の婚姻数は25,000世帯を下回っています。

■婚姻数・離婚数の推移



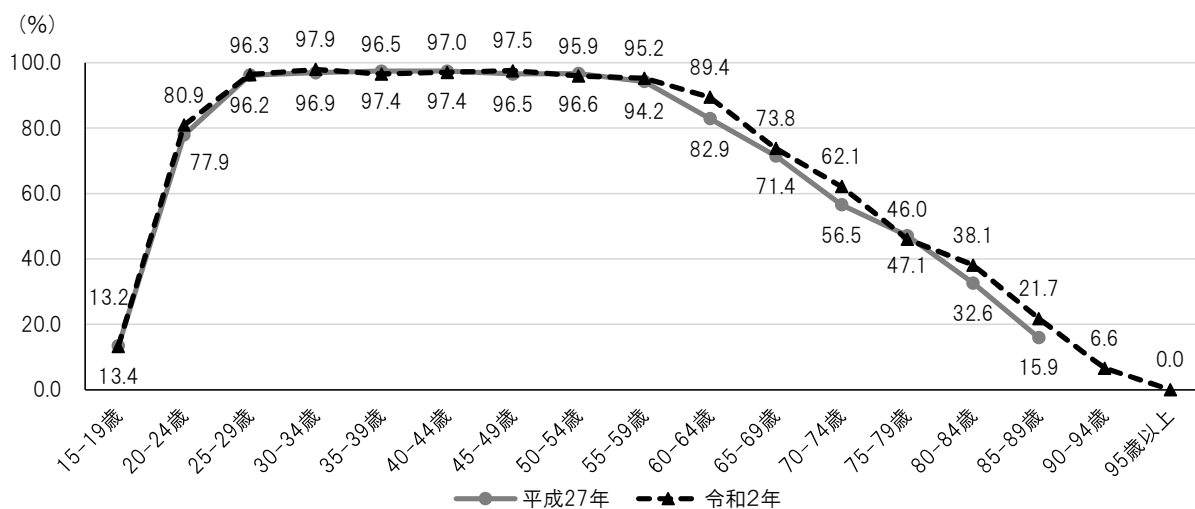
資料：国勢調査

(3) 労働の状況

⑩ 年齢別労働力率の比較

南あわじ市の年齢別労働力率をみると、男女とも平成27年と比べ55-59歳以降の労働力率が高くなっています。特に女性においては、15-19歳、80~84歳を除き、令和2年が平成27年を上回っています。

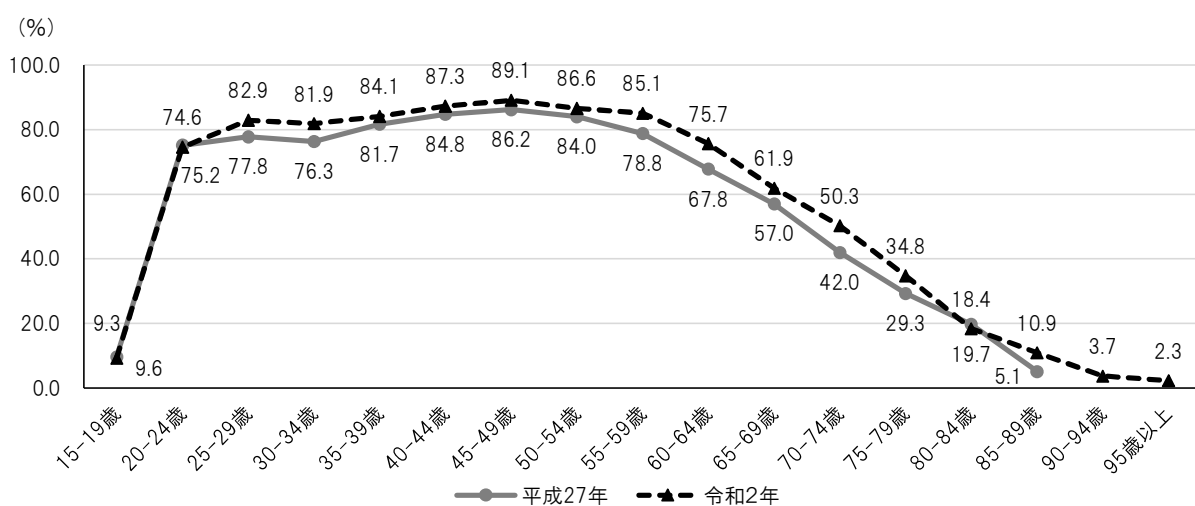
■男性の年齢別労働力率(南あわじ市)



平成27年は85歳以上、令和2年は95歳以上で集計

資料：国勢調査

■女性の年齢別労働力率(南あわじ市)

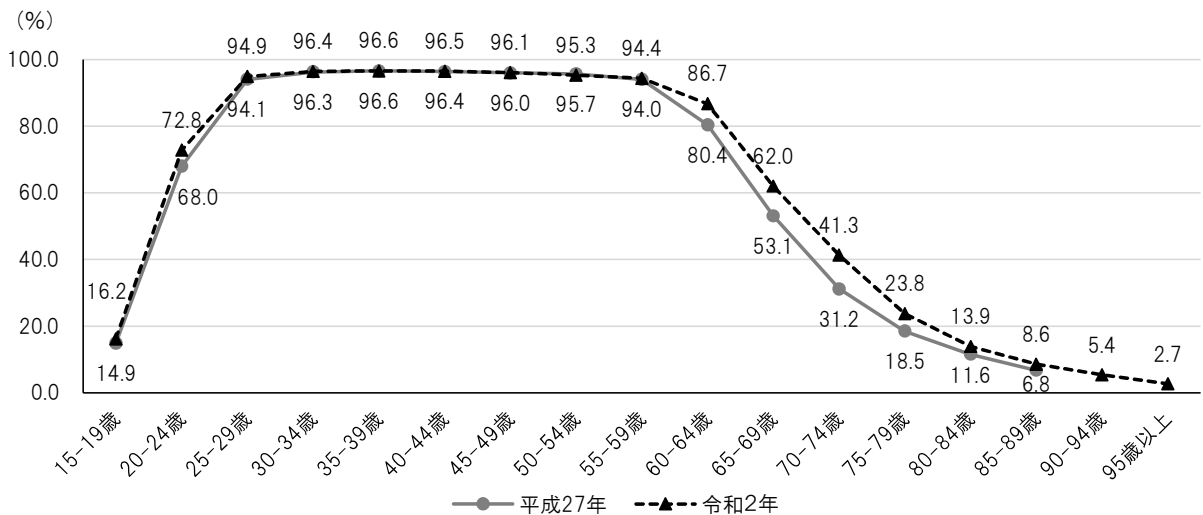


平成27年は85歳以上、令和2年は95歳以上で集計

資料：国勢調査

兵庫県の年齢別労働力率をみると、男女とも平成27年と比べ55-59歳以降の労働力率が高くなっています。特に女性においては、全年齢層で令和2年が平成27年を上回っています。

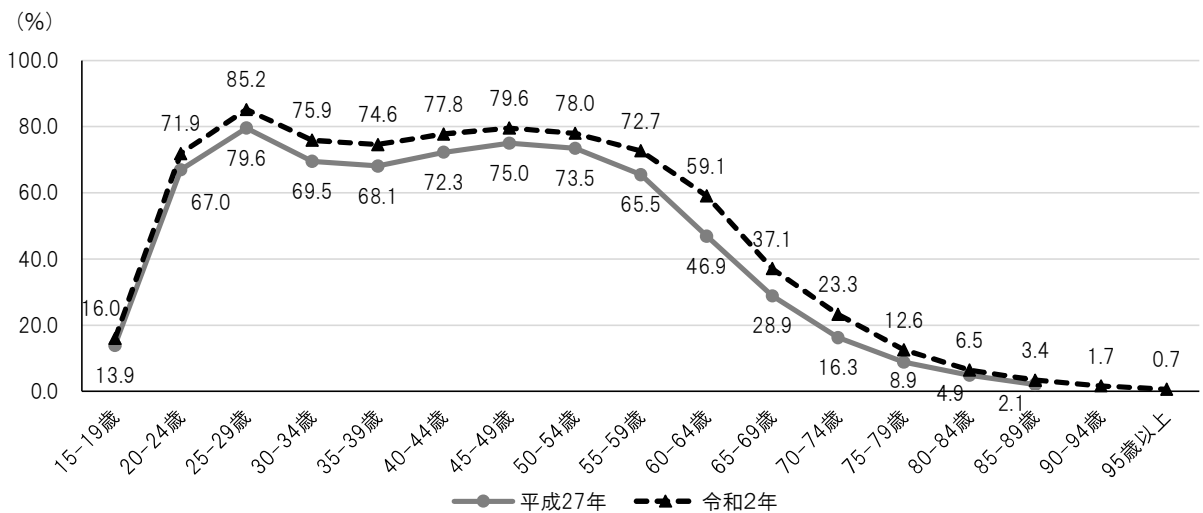
■男性の年齢別労働率(兵庫県)



平成27年は85歳以上、令和2年は95歳以上で集計

資料：国勢調査

■女性の年齢別労働率(兵庫県)



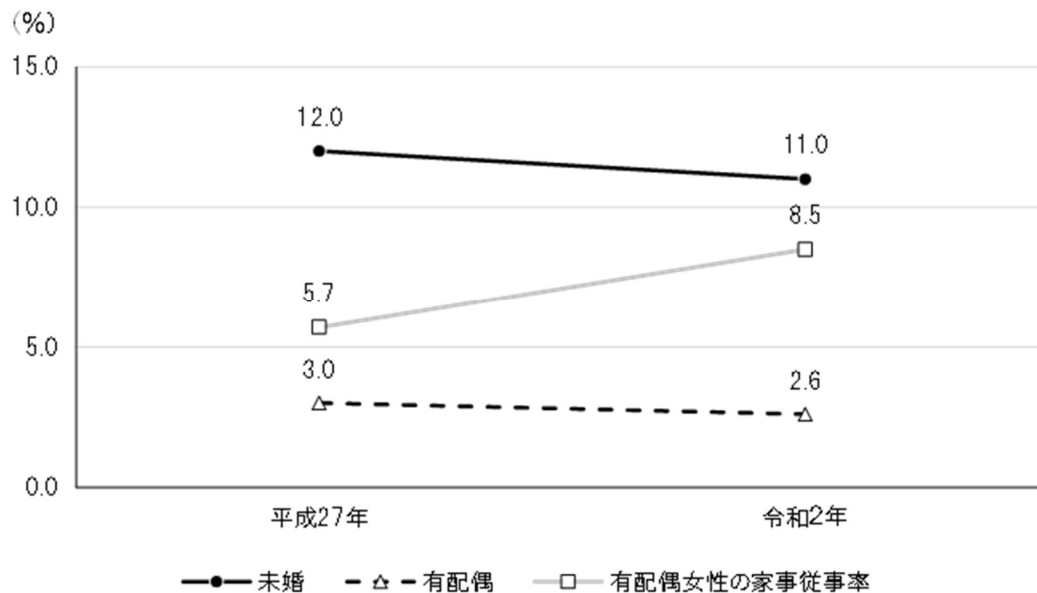
平成27年は85歳以上、令和2年は95歳以上で集計

資料：国勢調査

⑰ 女性の就業率の割合

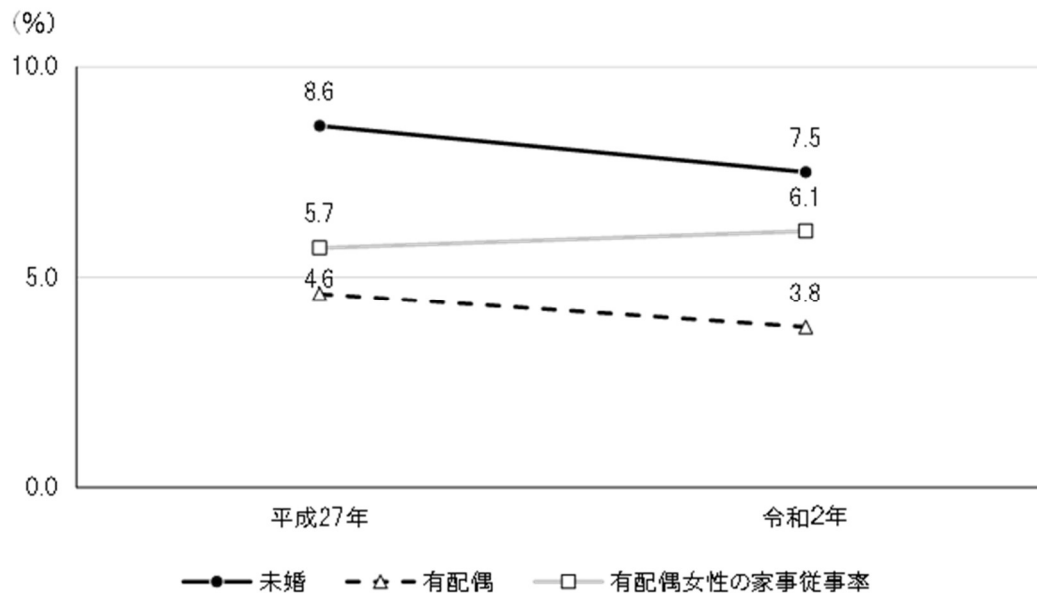
女性の就業率の割合をみると、令和2年の未婚女性の就業率は平成27年より下回っているものの、兵庫県よりも高くなっており、また有配偶女性の就業率は平成27年を上回っています。

■女性の就業率(南あわじ市)



資料：国勢調査

■女性の就業率(兵庫県)



資料：国勢調査

⑩ 女性の婚姻状況別就業状況

婚姻状況別の就業状況をみると、南あわじ市では有配偶の就業率が兵庫県と比較して高くなっており、家事従事率は兵庫県よりも低くなっています。

■婚姻状況別就業状況

南あわじ市	未婚の就業率	有配偶の就業率	有配偶の家事従事率
平成 22 年	54.77%	62.34%	28.25%
平成 27 年	56.84%	63.38%	23.57%
令和 2 年	51.31%	65.74%	20.37%
兵庫県	未婚の就業率	有配偶の就業率	有配偶の家事従事率
平成 22 年	54.82%	21.21%	42.43%
平成 27 年	53.71%	44.46%	36.93%
令和 2 年	55.37%	47.40%	29.90%

資料：国勢調査

⑪ 南あわじ市の産業人口

就業者割合を産業大分類でみると、男女ともに第3次産業就業者数の割合が最も高くなっています。また、就業者割合を産業小分類でみると、男所ともに農林業が最も高くなっています。

■産業別（大分類）人口

令和 2 年度	産業人口	
	男性	女性
総数	12,498 人	11,239 人
第 1 次産業就業者数	2,838 人 (22.71%)	2,378 人 (21.16%)
第 2 次産業就業者数	3,451 人 (27.61%)	1,411 人 (12.55%)
第 3 次産業就業者数	5,692 人 (45.54%)	6,996 人 (62.25%)

資料：国勢調査

■産業別（小分類）人口(上位 5 件)

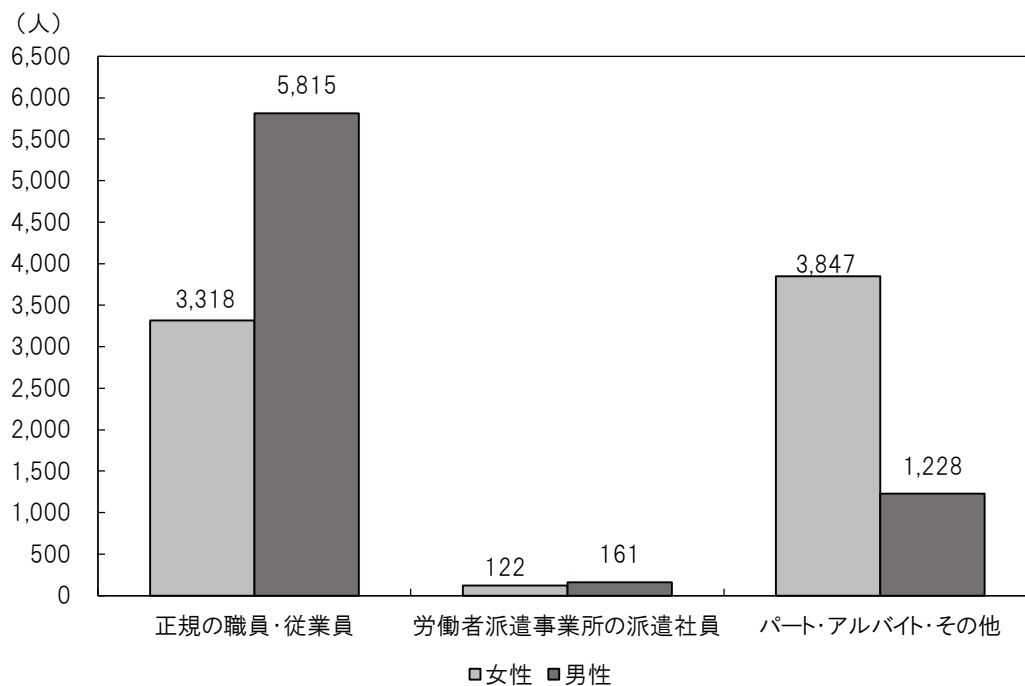
令和 2 年度			
男性		女性	
農林業	2,524 人 (20.20%)	農林業	2,303 人 (20.49%)
製造業	2,235 人 (17.88%)	医療、福祉	2,104 人 (18.72%)
卸売業、小売業	1,503 人 (12.03%)	卸売業、小売業	1,756 人 (15.62%)
建設業	1,214 人 (9.71%)	製造業	1,162 人 (10.34%)
運輸業、郵便業	616 人 (4.93%)	宿泊業、飲食サービス業	867 人 (7.71%)

資料：国勢調査

⑳ 雇用者の就業形態の割合

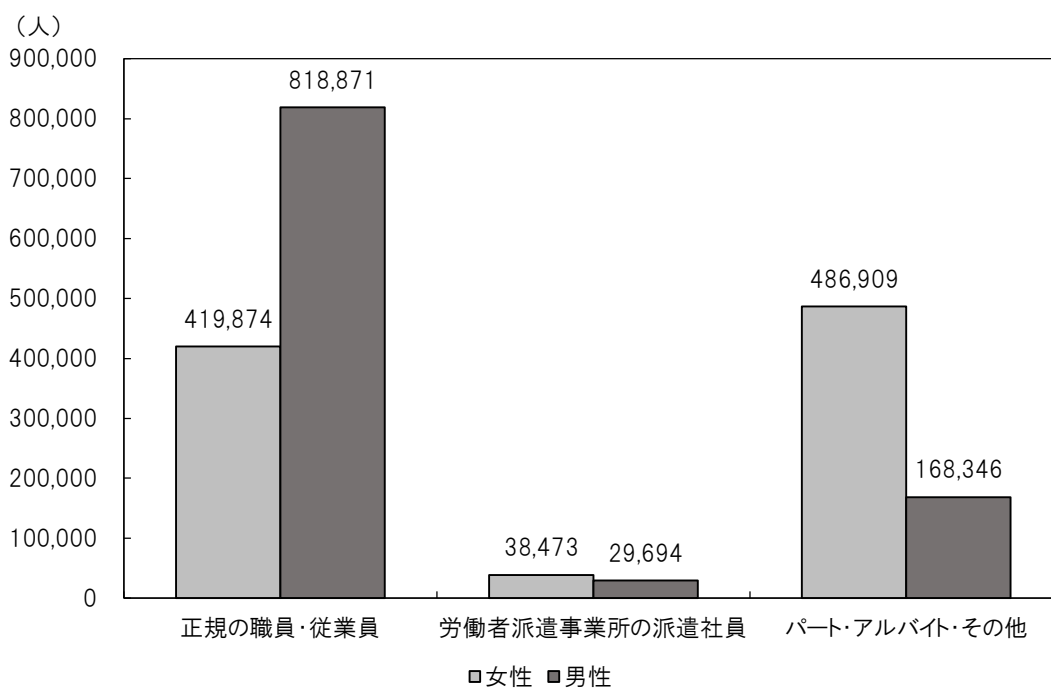
雇用者の就業形態をみると、兵庫県では労働者派遣事業所の派遣社員は女性の人数が多いのに対し、南あわじ市では男性の人数が多い状態です。

■雇用者の就業形態(南あわじ市)



資料：国勢調査

■雇用者の就業形態(兵庫県)



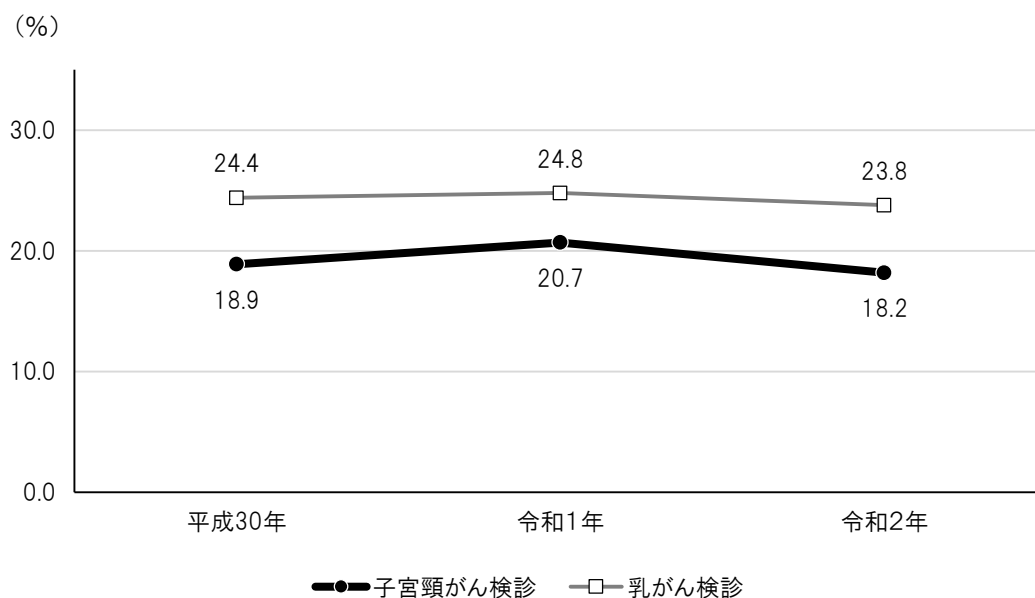
資料：国勢調査

(4) 困難を抱える人の状況

② 子宮頸がん、乳がん検診の割合の推移

子宮頸がん、乳がん検診の割合をみると、ともに横ばいで推移しており、令和2年の値が平成22年、平成27年と比較して最も低くなっています。

■子宮頸がん、乳がん検診の推移

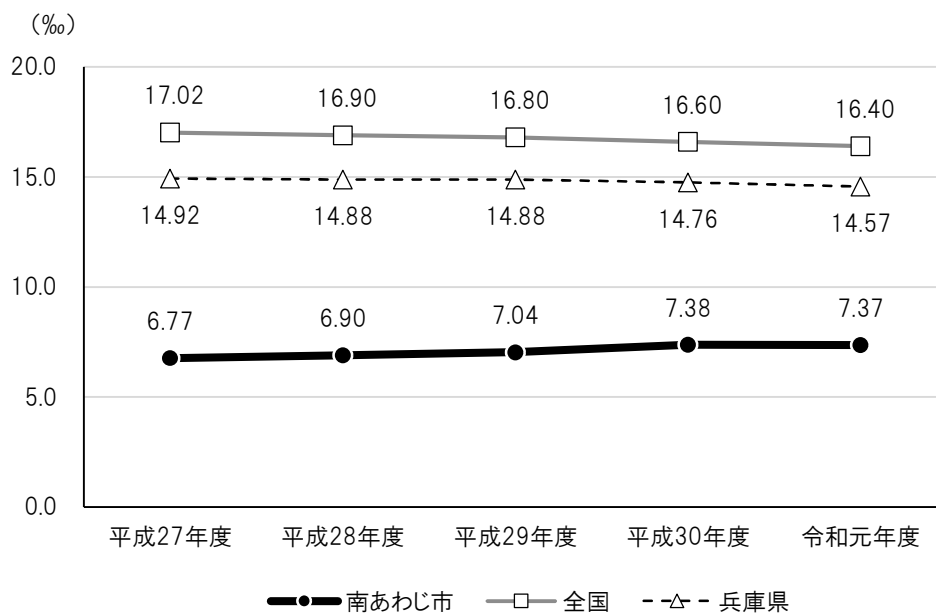


資料：兵庫県市町のがん検診

② 生活保護 保護率の推移

生活保護の保護率をみると、国・県より低い水準で推移しているものの、国・県が減少傾向であるのに対し、本市では増加傾向となっています。

■保護率の推移（国・県比較）



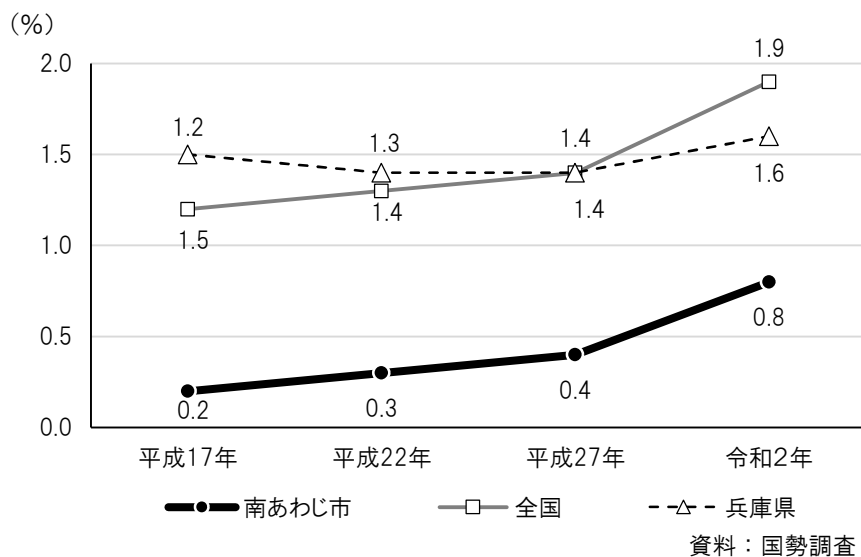
数値は人口千人当たり（パーミル）

資料：兵庫県社会福祉統計年報

②③ 外国人人口の割合

外国人人口が総人口に占める割合をみると、国・県より低い水準で推移しており、令和2年には0.8%となっています。

■外国人人口割合の推移（国・県比較）

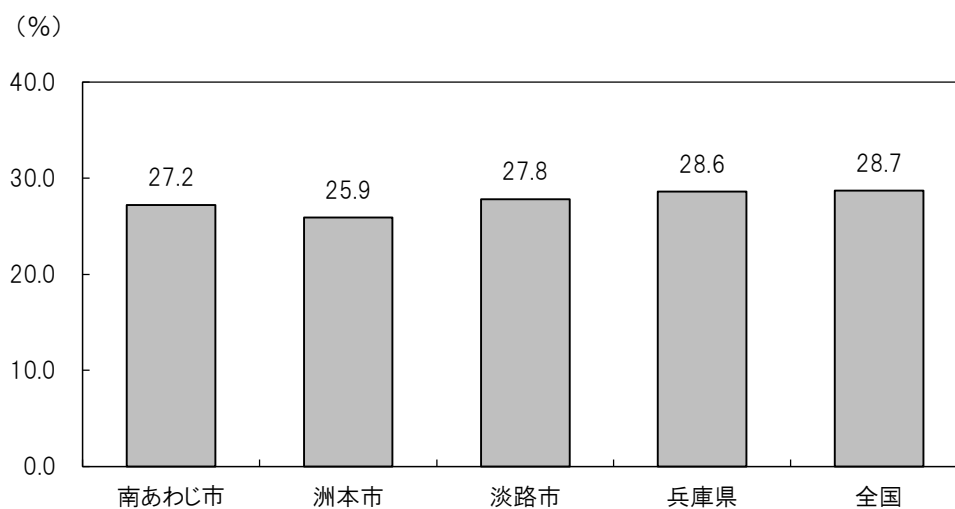


（5）意思決定の場への女性の参画状況

②④ 審議会等委員女性登用率の比較

審議会等委員女性登用率は、全国・県を下回っています。

■審議会等委員女性登用率



資料：市町村女性参画状況見える化マップ

㊸ 地域団体等における女性役員・委員の割合

地域団体等に占める女性役員・委員の割合は上昇傾向となっています。

■南あわじ市地域づくり協議会役員・委員数

南あわじ市	役員・委員数	うち女性	女性割合
平成 29 年	514 人	94 人	18.29%
令和 3 年	576 人	113 人	19.62%
令和 4 年	579 人	121 人	20.90%

資料：南あわじ市ふるさと創生課

㊸ 市議会構成員に占める女性の割合

市議会構成員に占める女性割合は上昇傾向となっています。

■南あわじ市議会の女性割合(兼務による重複を含む)

南あわじ市	構成員数	うち女性	女性割合
平成 28 年	43 人	2 人	4.65%
平成 29 年	51 人	2 人	3.92%
平成 30 年	49 人	6 人	12.24%
令和元年	50 人	5 人	10.00%
令和 2 年	50 人	10 人	20.00%
令和 3 年	47 人	11 人	23.40%

資料：南あわじ市ふるさと創生課